

内容項目名	(内容項目2ー(人との関わりに関すること))		
資料名	「公共の場と子育て」(出典「自作映像資料」)		
学校名	県立柏南高等学校学校	指導者	工藤 友里名

1 学習指導案

高等学校 1年5組 道徳学習指導案

平成29年10月30日(水)6校時

(1) 主題名

(2) ねらい

公共の場での育児に関する問題を述べた新聞投書について、生徒同士で議論しあって公共の場より良いあり方について考えることを通して、社会の一員としての倫理観や思考力を身につけさせる。

(3) 主題設定の理由

公共の場での行動に関して、どこまでを許容しどこからを不相当と区別するかは、ほとんどが個人の常識や善意に委ねられたものとなっている。電車内での化粧や通話、「歩きスマホ」など時代に合わせて求められるルールは多様化するとともに、社会の一員である我々も柔軟に豊かな良識を身につけることが求められている。同時に時代にそぐわないルールや価値観も更新されていくべきであるが、個人間の価値観の差異等から、ある一定のふるまいについて「公共の場にふさわしいか否か」が賛否両論存在し定まらないものもある。このように容易に解決策が得られない課題に、一個人としてしっかり熟考し自らの意見を持つことは、今後社会人として将来を担う生徒たちに必要な力であると考え、本主題を設定した。

(4) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	<p>1 子育ての手伝いの経験はあるかを聞く。</p> <p>○小さな子の世話をしたことがありますか。世話をしてみてもう感じましたか。</p> <p>2 新聞の投書を提示し、投書の内容について賛成か反対かを議論することを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ある ・大変だった。 ・ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験を想起させる。 ・世話をしたことがある生徒がいた場合、様子や感覚を覚えていたら話してもらおう。 ・即時に答が得られる問いではなく、議論してお互いの考えを深めることが大切であるということを伝える。
展開 (30)	<p>3 育児に関する日本の現状をワークシートを用いて確認する。</p> <p>4 投書に対する実際の賛成、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知らなかった。 ・親の手伝いをしたので知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式で話しやすい雰囲気をつくりだしながら、事実の確認を行う。 ・どちらの根拠も納得できる

	<p>反対意見を紹介する。</p> <p>5 話し合いのルールを確認し、4人ほどのグループで話し合いを行わせる。 ○投書の内容について賛成か、反対か、グループで話し合ってください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらかという反対である。 ・自分が母親になったらと思うと賛成 	<p>部分があることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のちに発表することを伝え、あらかじめ発表者や司会を各グループで決めておく。
<p>終末 (15)</p>	<p>5 各グループで出た意見を発表させる。</p> <p>6 参考として外国での対応や価値観を伝える。</p> <p>7 どうしたら少しでも両者の意見の人間が居やすくなるか考える。 ○どちらの意見も根拠があるが、互いが少しでも過ぎやすくなるためにはどうしたらいいでしょうか。</p> <p>8 他グループの意見等を踏まえて個人の感想を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設があるなら利用すればいいと思うので賛成。 ・ケープで見えないのだし、見ようと思わなければ誰も困らないのだから反対。 ・禁止や非難はすべきではない。 ・必要な時は授乳していると思う。 ・母親側も、嫌悪感を持っている人がいるかもしれないことを配慮する必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず理由も述べて発表することを伝える。 ・アメリカや台湾などの身近な諸外国での対応を参考として知らせる。 ・お互いが少しずつ我慢し合うことや、相手の立場の困難さを想像することで、寛容な見方を持つことも大切であることを伝える。 ・意見は発表時と異なってもよいと伝える。

(5) 他の教育活動との関連

議論を通して自らの考えを深めるという学習は、国語や英語をはじめ多くの教科で行われている。

2 事後検討会

(1) 授業記録

T みなさんの意見は賛成も反対も、または中間というグループもありましたが、どの意見も根拠

がありますね。それではこの問題はどうしたらよいでしょうか。

S 両方が少しずつ我慢しあえば、両立できると思います。

T 具体的には、それぞれどんな配慮が必要だと思いますか。

S 授乳する母親側も、ケープをするなどして配慮することは大切だと思います。誰かが不快だと思うかもしれないという心配りができれば、問題ないのではないのでしょうか。

S 授乳する様子をほとんど見えない状態まで配慮した母親側に対して、自分の価値観を押し付けて非難するのは良くないと思います。

T ありがとうございます。反対の立場の意見を理解しつつ、お互いの困難さを想像し合って共存できるのが心地よいですね。

(2) 授業の感想

(生徒の感想)

- ・自分だったら周りの目を考えると授乳できないと思った。だけど、だからといって授乳している母親を非難しないようにしようと思った。
- ・世の中には割り切れない問題もたくさんあると感じた。どちらが悪いと決めつけずに、ちょっとずつ譲り合う気持ちが大切だと思った。
- ・自分の意見が正しいと思いがちだけど、いろんな意見に触れて難しいと思った。

(参観者の感想)

- ・自分の意見を臆せず言い合えるいい雰囲気だったと思う。
- ・話し合いの時間をもっと多く取れば、内容がより深まったと思う。二時間構成にするなどして、時間を多く確保してやって見れば良いのではないか。
- ・諸外国と日本の価値観の違いにも触れられれば、日本独自の価値観についても触れられたかもしれない。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) 教材について

- ・自作教材である。2017年1月の朝日新聞の投書をもとに作成した。「授乳ケープ」など、普段生活する上では目にすることのないものは資料を用意し、議題とする内容が十分に把握できるように配慮した。
- ・話し合いのまとめはマグネットシートに書き出させ、議論の内容が分かるようにした。

(2) 事前準備

- ・パワーポイントが使える環境を用意しておく。